「それぞれのサンシャイン物語」～連載開始にあたって～

Serial essays "My memoirs of the *Sunshine Project*" – Introduction

加藤和彦（学会誌編集委員会副委員長）

1975年に設立された本学会は来年2025年に設立50周年を迎えますが，その一方で今年は本学会と縁の深い通商産業省工業技術院（当時）の「新エネルギー技術研究開発計画（通称：サンシャイン計画）」が発足してから50年の節目の年でもあります．故野口哲男氏（第4代会長）や故堀米孝氏（第6代会長），故谷辰夫氏（第10代会長）らをはじめとした本学会設立に尽力された方々は，このサンシャイン計画の企画・立案段階から中心的役割を果たした先達でもあります．また，本学会のフェロー・会員の多くがサンシャイン計画（1974～1992年）とその後継であるニューサンシャイン計画（1993～2000年）に関与しています．

そこで本学会学会誌「太陽エネルギー」では，学会設立50周年記念事業に連動した新連載「それぞれのサンシャイン物語」をはじめます．この連載ではサンシャイン計画（およびニューサンシャイン計画）にかかわったフェローや会員（さらには学会の外にも手を伸ばして）に執筆を依頼し，当時の思い出や苦労話，経験から得た教訓などを随筆風に自由につづっていただきます．なお，連載は毎号お一人ずつで計画していますが，その順番は時系列ではないため時代が前後することを前提にしています．また，記事の長さもまちまちになることでしょう．どうかあらかじめご承知おきください．

では，記念すべき第1回目は本学会フェローである桑野幸徳さんです．桑野さん，よろしくお願いします．

参考：「サンシャイン計画」とは？

戦後の高度経済成長にともなうエネルギー消費の急増，一次エネルギーにおける石油依存度の上昇とその偏在性に起因する安定供給リスク，化石燃料消費にともなう大気汚染などの環境問題の深刻化，といった1960年代のわが国のエネルギー事情の中で，1973年8月に通商産業大臣から諮問を受けた産業技術審議会はエネルギー技術特別部会を設置して新エネルギー技術の開発をどう進めるべきかの審議を始めました．この審議はその後に発生した第一次石油危機のさなかにも続けられ，同年12月に「新エネルギー技術開発の進め方について」と題する答申を行い新エネルギー技術研究開発計画発足の必要性を提言しました．この答申を受けて発足したのが「新エネルギー技術研究開発計画」，通称「サンシャイン計画」です．通商産業大臣が定めた「サンシャイン計画基本方針」の冒頭にはこうあります～エネルギーの長期的な安定供給が国民生活と経済活動にとって極めて重要であることにかんがみ，国民経済上その実用化が緊要な新エネルギー技術について，西暦1974年から2000年までの長期間にわたり総合的，組織的かつ効率的に研究開発を推進することにより，数十年後のエネルギー需要の相当部分を賄いうるクリーンなエネルギーを供給することを目標とする～．

この計画は新エネルギー技術開発に関するわが国で最初の（そしておそらく最後の）長期的でかつ産学官一体となった国家プロジェクトでした．上記の目標を達成するための重点的な開発項目としては，太陽エネルギー，地熱エネルギー，石炭のガス化と液化，水素エネルギー技術の四つが取り上げられ，また，新エネルギー技術のシーズ発掘に配慮した総合研究として風力発電やバイオマスエネルギー，海洋エネルギーの研究も取り上げられました．これらの基礎研究には工業技術院傘下の多くの国立研究所や工業試験所（現在の産業技術総合研究所）が指導的役割を果たしました．

1980年にはプラント開発を担う中核機関として新エネルギー総合開発機構（現在の新エネルギー・